

人を大切に
 社会を大切に

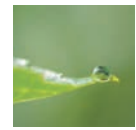


レスポンシブル・ケア レポート 2019

環境・安全報告書

 日本化学工業株式会社





CONTENTS

CONTENTS	2
ごあいさつ	3
会社概要	4
日本化学社員行動指針 レスポンシブル・ケア基本方針	5
RCマネジメント	6.7
保安防災への取り組み	8.9
地域とのつながり	10.11
化学物質の安全管理	12
品質への取り組み	13
労働安全衛生活動	14.15
環境パフォーマンス	16.19
トピックス	20
環境会計	21
サイトレポート	22.26
豊かな暮らしのために（製品用途）	27

この報告書は、環境省の「環境報告書ガイドライン2012年版」、GRIの「ガイドライン」等を参考に作成しました。また、環境保全のみではなく製品安全・保安防災・労働安全衛生・地域社会との対話についても記載しております。

2018年4月～2019年3月を対象期間としていますが、当該期間以後の活動、集計期間の異なるデータも含まれております。

事業所範囲：会社概要に記載の国内事業所
発行日：2019年10月
(次回発行予定：2020年10月)
作成：日本化学工業株式会社
作成委員：
生産技術本部
福島第一工場 環境安全・品質保証課
福島第二工場 環境安全・品質保証課
愛知工場 環境安全・品質保証課
徳山工場 環境安全・品質保証課
生産技術部 環境安全グループ

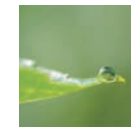
問合せ先：
〒136-8515
東京都江東区亀戸9丁目11番1号
TEL 03-3636-8074 FAX 03-3636-8132
<https://www.nippon-chem.co.jp>

2019年の表紙

自然の風景を切り取りました。自然の恵みを受け取りながら、人間社会が存続し続けられるよう、私達は将来を見据えた行動が必要です。そんな思いの詰まった表紙になりました。



旧中川より、当社研究棟



ごあいさつ

環境にやさしく 安全で開かれた化学企業を 目指します。



代表取締役社長

取締役会長

取締役兼
常務執行役員

棚橋 洋太 棚橋 純一 愛川 浩功

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
「レスポンシブル・ケア レポート 2019」をお届けするにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

◆企業理念「人を大切に、技（わざ）を大切に」

当社は、人の絆、自然環境と融和した技術の開発を大切にしています。それは、当社独自の技術力を高める日々の努力や仕事の効率化を追求していくなかで生まれる斬新な発想の芽と、一人ひとりのほとばしる情熱を後押しし、化学という無限の可能性を持った分野のあらゆる所において、夢を実現させていく企業でありたいと考えるからです。

◆レスポンシブル・ケア活動

当社は、1995年に日本化学工業協会傘下のRC協議会設立と同時にレスポンシブル・ケア実施宣言をし、事業活動に関わるあらゆる面で、レスポンシブル・ケアに取り組んでまいりました。環境・健康・安全を確保し継続的に改善すること、また地域共生をより深めるためにリスクコミュニケーションの重要性を認識し、利害関係者との信頼関係を積み重ねております。

◆新たなチャレンジへ

創業125周年を昨年迎え、次の新しい歴史を作っていきます。社会に新しい風、事業領域に新しい風、社内に新しい風、そしてお客様に新しい風。失敗を恐れずに、会社の成長に向けて、スピード感を持ち、新たな分野へ挑戦していきます。

このレスポンシブル・ケアレポートの発行も今年で第18号となります。今後も全社が一体となってレスポンシブル・ケア活動の進展に努めてまいります。当社のレスポンシブル・ケア活動に際し、引き続きご理解をいただき、皆様からのご意見、ご指導をいただければ幸いに存じます。



会社概要

名 称： 日本化学工業株式会社
(NIPPON CHEMICAL INDUSTRIAL CO.,LTD.)

本 社 所 在 地： 東京都江東区亀戸9丁目1番1号

創 業： 1893年(明治26年)9月

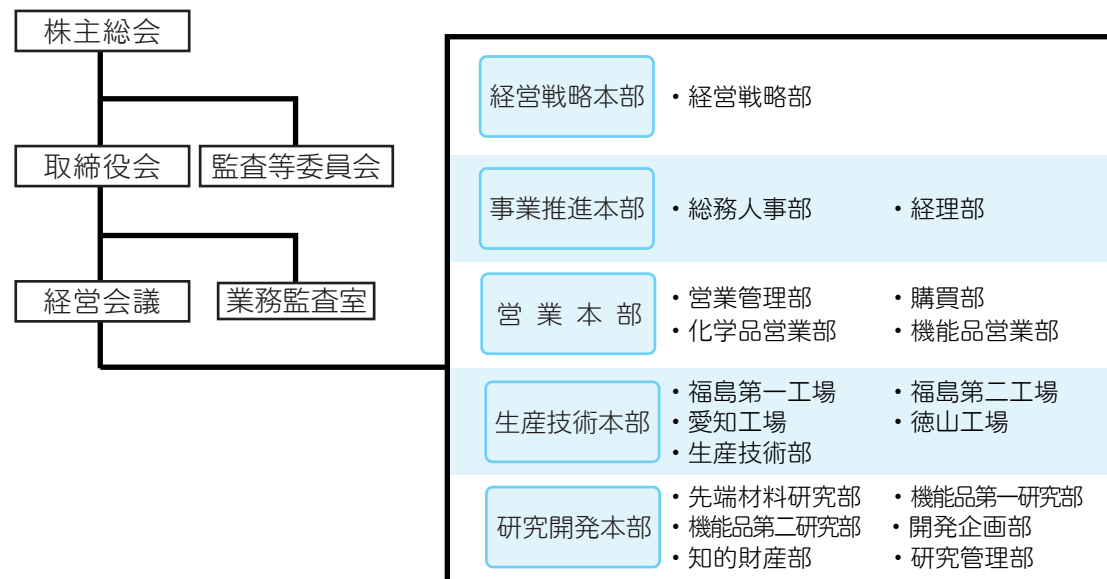
創 立： 1915年(大正4年)9月10日

代表取締役社長： 棚橋 洋太(たなはし ひろた)

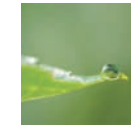
資 本 金： 5,757百万円
(発行済株式総数8,922,775株)

従 業 員： 555人(2019年3月31日現在)

組織図



売上金額および従業員数 (2019年3月31日現在)



日本化学社員行動指針 レスポンシブル・ケア基本方針

当社は、「人を大切に、技を大切に」を企業理念としています。この企業理念に基づき製品の開発・製造・物流・使用・最終消費・廃棄に至るまでの全段階において、環境の保全と安全の確保に配慮し、持続可能な社会と環境の実現に貢献します。

日本化学社員行動指針

(項目のみ抜粋)

当社は、コーポレートガバナンス、法令の遵守を徹底するため、「日本化学社員行動指針」を制定し社内外に公表しています。

1. 法令等の遵守
2. 公正で自由な競争の維持、促進
3. 健全で良好な取引先や関係先との関係維持
4. 知的財産権の保護
5. 情報の開示
6. 反社会的勢力との絶縁
7. 地域貢献
8. 優れた製品とその取り組み
9. 製品の安全な取扱い
10. 安全で健康的な職場環境の確保
11. プライバシーについて
12. 差別的取扱いの禁止
13. 環境の保護

レスポンシブル・ケア基本方針

1. 法規制の遵守

環境保全・保安防災・労働安全衛生及び製品安全について、国内外の法規制を遵守するとともに、国際関係機関・国内外の行政機関及び非政府団体等に協力します。

2. 環境を配慮した安全操業

事業活動において環境に配慮し、操業については従業員や市民の安全と健康を守り、事故・災害・公害を起こさないよう努めます。

3. 安全な製品と情報の提供

製品の研究・開発から製造・販売を経て廃棄に至るまでの全段階で、環境保全・安全確保について評価を行い、環境負荷の少ない安全な製品を提供するとともに、製品の安全な使用と取扱いに関し顧客に必要な情報を提供します。

4. 省資源・省エネルギー

環境を保全するために、製品の企画段階で、省資源・省エネルギー、廃棄物削減等に配慮した技術の開発に努めるとともに、生産活動において、資源やエネルギーのより一層の効率的な使用や再利用に努めます。

5. 自主監査の実施

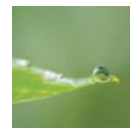
各部門の環境保全・安全確保対策の実施状況は社内監査により評価し、継続的に改善を図ります。

6. 全社員の責任の自覚と社会との信頼の向上

これらの理念・方針に基づき、経営者から社員一人一人に至る全員が自らの責任を自覚し、環境保全・安全確保対策を推進し、社会との信頼性の向上に努めます。

改訂 2006年12月15日

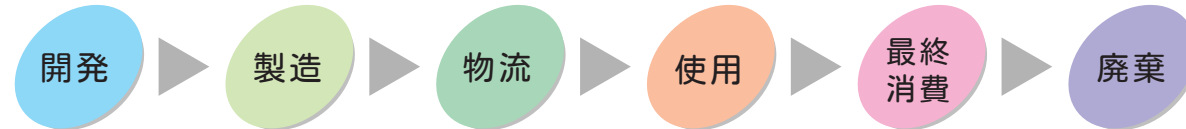
制定 1997年4月1日



RCマネジメント

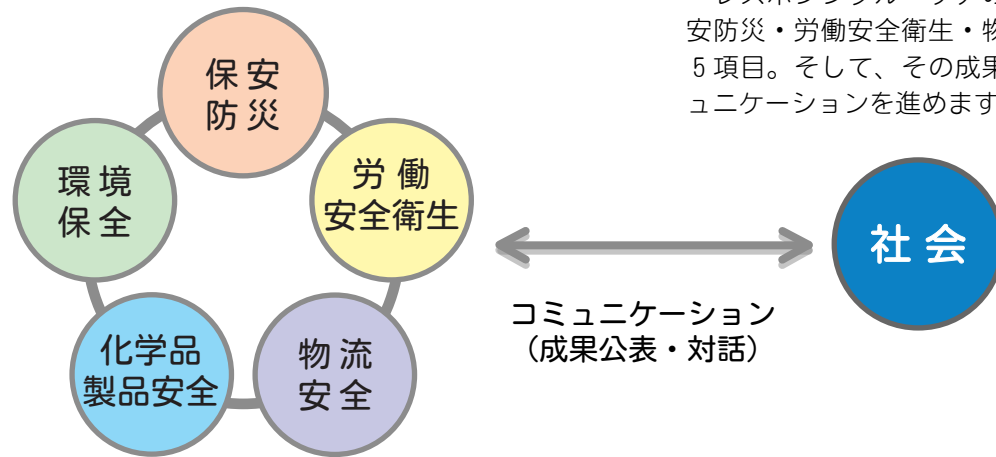
レスポンスブル・ケアとは

レスポンスブル・ケア（RC）とは、化学物質を製造または取り扱う事業者が、自己決定・自己責任の原則に基づき、化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄に至るまでの全ライフサイクルにわたって「環境保全・保安防災・安全及び健康」の確保を経営方針において公約し、社会との対話を通して信頼を深めていく自主管理活動です。



レスポンスブル・ケアは、1985年にカナダで誕生し、1989年に国際化学工業協会が設立され、この活動は世界60ヶ国を超える諸国で展開されています。

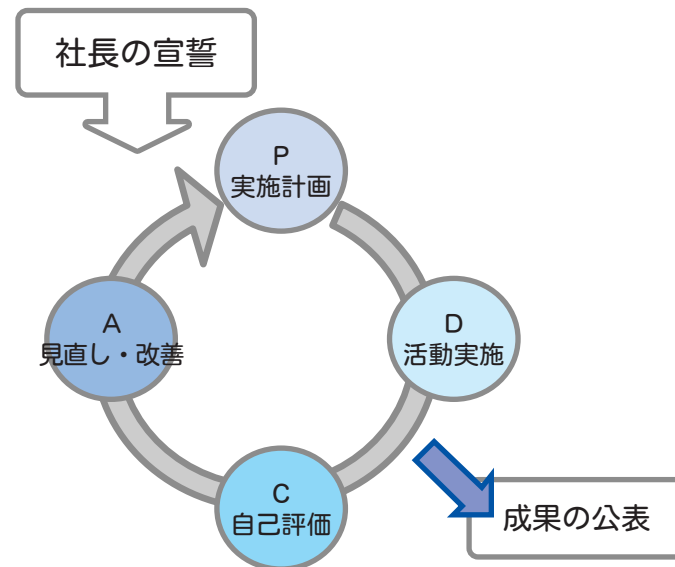
レスポンスブル・ケアの実施項目



レスポンスブル・ケアの実施項目は、環境保全・保安防災・労働安全衛生・物流安全・化学品製品安全の5項目。そして、その成果を公表して、社会とのコミュニケーションを進めます。

レスポンスブル・ケアの進め方

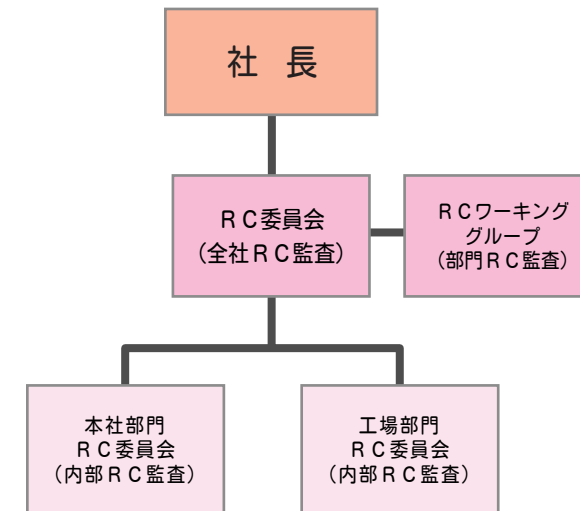
レスポンスブル・ケアは経営トップの宣誓と、目標の設定に基づき、PDCAサイクルに沿って実施します。計画の作成（Plan）、活動の実施（Do）、自己評価（Check）、見直し・改善（Act）を継続して進めていきます。



レスポンスブル・ケア活動体制

レスポンスブル・ケアの推進体制は、RC委員会（社長を委員長とし、役員が構成メンバー）を全社RC統括機関とし、その下に本社部門RC委員会と4工場それぞれの部門RC委員会の計5部門からなる組織で構成されています。

RC推進組織



5月から6月にかけて、RCワーキンググループによる部門RC監査を実施します。（監査後の現地確認の様子）

RC監査体制

・全社RC監査

毎年6月末までに全社のRC実施状況の取り纏め、次年度活動計画を立案してRC委員会に諮り、前年度RC活動の総括、次年度計画案の承認を受けています。

・部門RC監査

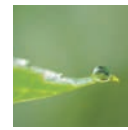
各部門での取り組み状況について、レスポンスブル・ケアワーキンググループ（RC担当役員、生産技術部のRC部門担当者）は各事業所所在地で環境安全管理状況の監査を行います。この結果は、各部門RC委員会にフィードバックされ、各部門の目的・目標や計画に反映させています。

・内部RC監査

本社、工場の各部門が自らのRC計画の達成状況を自己評価し、次年度の部門の目的・目標や計画に反映させ、継続的改善を図っています。



7月には、全社RC監査を兼ねた「環境・安全/品質会議」を開催します。同時開催として、外部講師による「BCPセミナー」も実施しました。



保安防災への取り組み

防災訓練

・徳山工場

保安防災訓練

工場で起こりうる災害としては「爆発・火災・漏洩」に代表される異常現象、年々リスクの増大している「地震・大型台風・ゲリラ豪雨」などの自然災害が想定されます。

多くの危険物や劇物製品を取り扱う徳山工場では、様々な災害に対し、「総合防災訓練」や「机上防災訓練」などの各種訓練を計画的に実施しています。

これら訓練を通じ、各自の防災意識の向上と役割に応じた適切な行動により、有事の際の被害を最小限に留める活動を継続します。



・福島第二工場

2018年 合同消防訓練実施



福島第二工場自衛消防組織と防災関係機関が一致協力して、防災活動が迅速かつ円滑に行える協力体制の確立と意識の高揚を目的とした防災訓練を、2018年6月7日に工場自衛消防団と防災関係機関（郡山地方広域消防組合消防本部、田村消防署、三春分署、田村警察署、三春町役場）の合同で行いました。

想定は、福島県内陸部を震源とする震度6強の地震発生による、300t黄燐タンク配管ラック付近からの火災と白煙発生。さらに黄燐溶解所にて溶解作業を行っていた作業員1名が約3mの作業床からの落下で負傷。直ちに自衛消防隊の召集と指揮本部設置、消防等官公庁への連絡が行われ、自衛消防隊と消防機関での連携した消火、救護活動が展開されました。

有事の際に迅速な対応ができるよう今後も定期的な訓練を行います。



・福島第一工場

自衛消防操法への参加

2018年10月3日に、第48回郡山地区自衛消防操法大会が行われました。大会へ向け、隊長を始め、副隊長、インストラクター、その他大勢の皆様のご指導・サポートを受け、練習を行ってきました。最初は不安しかありませんでしたが、練習を重ねていくにつれ、自分達が成長できていくのが分かり、それが自信へと変わっていきました。

大会本番では、福島第一工場で過去最高位の「第3位」という成績を収める事ができました。今大会への参加は、結果はもちろんですが、練習から本番まで全てが貴重な経験となりました。この経験を糧に、防災活動を始め、様々な事に活かしていきたいと思えます。

(記 山内 裕貴)



・愛知工場

第37回 自衛消防隊消火技術競技会



愛知工場では、会社の財産である従業員及び設備の被害を最小限に抑えるべく、積極的な訓練活動を展開しております。その中に自衛消防隊の活動があり、災害発生時において各隊員が、有効かつ適切な処置が出来るように、日々鍛錬しております。

例年、初期消火技術の向上と自主防災体制の確立を図ることを目的とし、地域の自衛消防隊消火技術競技会に参加をしております。今回の選出メンバーは、平均年齢42才で最長52才と今までになく高年齢だったため、練習期間中は体力的につらい部分もありましたが、大会本番では、さすがはベテラン、練習で習得した技術をミスする事もなく安全で正確かつ、よりスピーディーに競技をすることができました。

結果は団体で総合優勝こそ逃しましたが、準優勝と好成績を収める事が出来ました。有事の際には有効かつ適切な処置、行動がとれるように防災活動の更なる活性化と継続をしていきたいと思えます。

(自衛消防隊長 坊野 巖)



VOICE

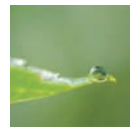
【安否確認システムの導入】

本社
NBCP運営委員会事務局 大原 加容子



当社にも災害時等の安否確認システムが導入され、緊急連絡を確実に伝達できるようになりました。「自分の安否」、「家族の安否」、「家屋の安否」、「出社の可否」という情報を入力します。BCPに繋げるための重要な情報です。

今後は更に利用の幅を広げ、多様なリスクに柔軟に対応できるよう事務局も気を引きしめ活動していきます。



地域とのつながり

地域社会への貢献

・地域住民との対話集会

環境保全連絡協議会の開催（福島第二工場）



2019年5月16日、10時30分より地域の区長8名、町役場から3名、（一社）日本化学工業協会から1名、当社（本社・工場）10名の合計22名で第16回の環境保全連絡協議会が福島第二工場で開催されました。

工場概要の説明及び2018年度の工場環境管理活動の報告の中で、当該年度に発生した事故や苦情等に関する原因と対策について説明しました。また、2019年3月末に完成した有機5工場の紹介もさせていただきました。その後、事務所正面玄関前での記念撮影を行い、続けて汗ばむ陽気の中、2班に分かれて場内各要所で説明をする工場見学。会議室に戻って、質疑応答となりました。「臭気」についての質問が中心になりましたが、重要課題として取り組んでいること、また、日々実施している活動の紹介、有事の際の対応について説明しました。

今後も、引き続き地域の方々とのより良い関係を築き、開かれた工場として自主的かつ継続的に、環境・安全・健康に配慮した活動に取り組んでいきます。



VOICE

【徳山夏祭り綱ガール！乙女達の綱引き大会】

徳山工場
検査室 西村里子



2018年7月、第45回徳山夏祭りにて開催された綱引き大会へ2年ぶりに本社・愛知・徳山工場から乙女達が集結し参戦しました。前は準優勝というプレッシャーも跳ね除け、あっという間に決勝の舞台へ。相手は現役の手ボール選手。現役にも負けないギリギリの攻防戦でしたが、持久力の差で惜しくも敗北し今回も準優勝で幕を閉じました。

いつもは静かな徳山の街も応援の声が飛び交い賑わいを見せていました。微力ではありますが参加することで地域の活性化へ役立てたのではないのでしょうか。次回はもちろん、優勝を狙います！

住民説明会の開催（福島第一工場）

2018年11月20日、方八町自治会の住民を対象とした工場見学及び意見交換会を開催いたしました。先ず始めに、工場の沿革や工場製品の紹介を中心とした工場概況、次に安全と環境に関する取り組みについてそれぞれ説明し、その後2班に分かれて工場見学を行いました。

安全については、回転体への安全対策や化学物質取扱時の表示等の紹介、またヒヤリ・ハット報告、危険予知活動、リスクアセスメントの取り組みにより災害防止を図っていることを説明しました。環境については、環境方針の紹介のあと、薬品設備や排水処理、薬品や廃液漏洩時の緊急訓練の取り組みについて説明しました。

21名の参加でしたが、皆さん熱心に耳を傾けられた以上の質問や感想を述べてくださいました。これからも情報を共有して地域住民の方々に安心していただける工場として、地域社会との交流を図っていききたいと思います。

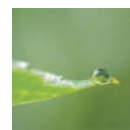


・ワクチンキャップ運動（本社）

本社でもペットボトルキャップ回収容器を設置し、回収を始めました。キャップを集めて、世界の子供達にワクチン支援を！ボトルキャップ4.8kg（約2,000個）で、ポリオワクチン約1本の寄付になります。

小さなキャップでも、分ければ資源になります。身近なところから、リサイクルを。





化学物質の安全管理

当社は創業以来125年にわたり、多くの化学物質や化学製品を製造してきました。それらの多くは他社で更に加工され、我々の身の回りの製品として便利かつ豊かな社会の実現に寄与しています。しかしながら、どのような化学物質もその取り扱い方法によっては、環境や人への健康に影響を及ぼす可能性があります。

当社では、化学物質の安全管理への取り組みを強化し、そのリスクを可能な限り小さくする活動を積極的に推進しています。

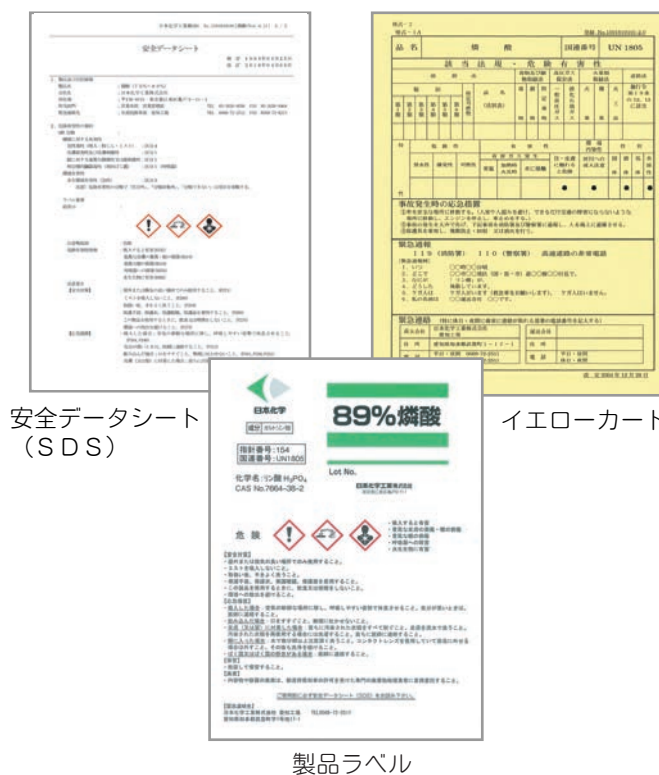
製品安全への取り組み

製品を安全に取扱っていただくための注意事項を記載したGHS対応の安全データシート（SDS）・製品ラベルを、全ての製品について作成し、顧客、代理店の皆様に情報提供しています。

また、製品を輸送する物流業者には、緊急時の処置と連絡先を記載したイエローカードの携行を徹底しています。

・SDSダウンロードサービス

HPの入力フォームより必要事項を入力し、ご登録いただくと、入手できます。



安全データシート (SDS)

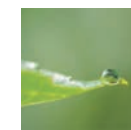
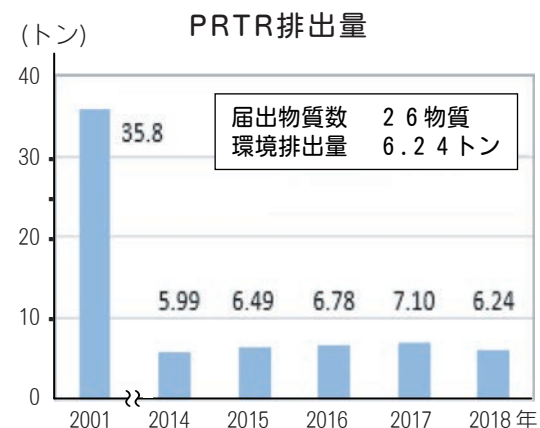
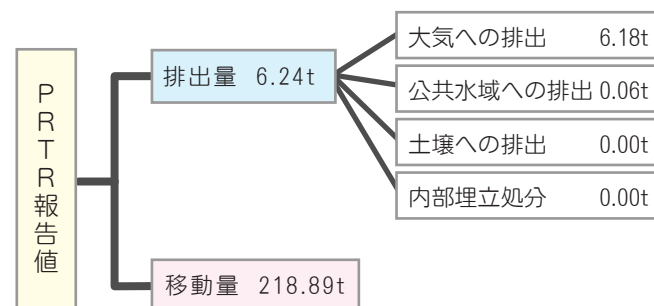
イエローカード

製品ラベル

P R T R への取り組み

P R T R法とは、化学物質の環境への排出実態の把握・管理を自主管理することで、環境汚染を未然に防止することを目的に1999年に制定された法律です。当社では、(一社)日本化学工業協会のP R T R調査にも参加しています。

2018年度の実績は以下の通りです。



品質への取り組み

私達は、優れた製品やサービスを、社会のニーズに応じて提供するため、製品開発力や製造技術の向上に努め、ISO9001に基づく品質システムを運用して、顧客満足および製品品質の向上を図ります。

常に顧客との情報交換に努め、顧客ニーズを把握し、これらの情報を製品開発、品質向上、製造技術の改善等に生かします。

製品品質や取扱いに関する苦情が発生した場合、応急処置、原因調査および再発防止対策を明確にし、他の部門や他の工場における同様な苦情の発生防止に役立ちます。(日本化学社員行動指針 8.優れた製品とその取り組み、より抜粋)

マネジメントシステム永年登録表彰

当社は日本規格協会ソリューションズ株式会社主催の2019年度マネジメントシステム永年登録表彰式にて「特別表彰」を受賞しました。

この表彰はマネジメントシステムにおいて、20年にわたりマネジメントシステムの登録を継続・維持・向上に努めた組織に贈られる特別表彰です。当社は、「品質マネジメントシステム」で受賞しました。

これからもISO9001の要求事項の本質を捉え、上手に活用し、さらに上位の要求にも応えられるように、マネジメントシステムを構築、維持、改善してまいります。



日本規格協会ソリューションズ株式会社社長の揖斐氏(左)と生産技術部奥山部長(右)

ハラール認証取得

当社では、拓殖大学イスラーム研究所のご指導のもと、日本ムスリム協会より、「食添用りん酸」(下記参照)について、「ハラール認証」を取得しております。

現在、イスラーム信徒の数は16億人と言われ、中でも東南アジアで特に多く、食品関連事業者が使用する原材料については、ハラール認証の取得が、製造工程については、ハラール性の確認それぞれが求められています。

このような現状のもとで、当社ではお客様からのご要望の多い製品についてハラール認証を取得しております。

- ・ハラール認証取得製品(2019年9月末時点)
食添用75%りん酸、食添用85%りん酸、食添用89%りん酸



証明書

【用語解説】

GHS (Globally Harmonized System of Classification and Labeling of Chemicals) :

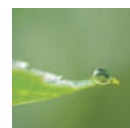
化学品の分類および表示に関する世界調和システムのこと。世界的に統一されたルールに従って、化学品を危険有害性の種類と程度により分類し、その情報が一目でわかるよう、ラベルで表示したり、安全データシートを提供したりするシステム。

PRTR (Pollutant Release and Transfer Register) :

化学物質排出移動量届出制度のこと。有害性のある多種多様な化学物質が、どのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを把握し、集計し、公表する仕組み。

ハラール認証 :

ハラール認証とは、ハラールであると認められた製品等にマークを付与する制度。具体的には、イスラム教が禁じているものを含まない食品等の規格を定め、原材料・製造工程・製品品質等を審査し、適合する製品にハラールマークを表示させること。

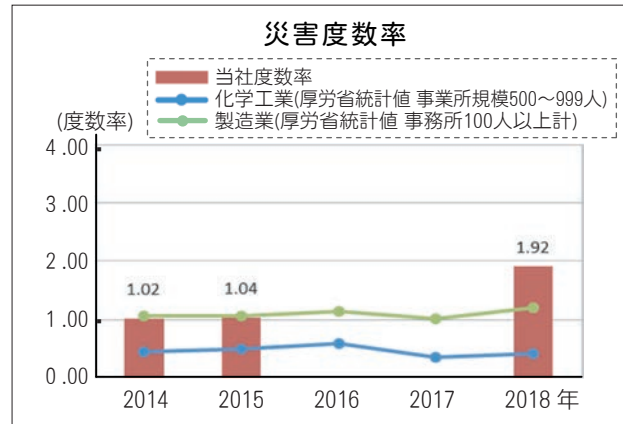


労働安全衛生への取り組み

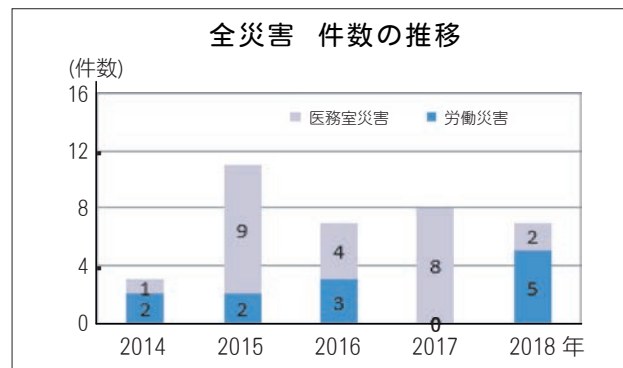
2018年度の災害度数率は、化学工業（事業所規模500～999人）が0.42、製造業（同100人以上計）が1.20に対し、当社では休業1日以上の災害は2件でしたので、度数率は1.92という結果になりました。（2016年と2017年の2年間は休業災害に至らなかったため、度数率は0.00でした。）

いわゆる赤チン災害（当社では医務室災害）と労働災害の件数を比較してみますと、直近の5年間で、医務室災害の数は労働災害の2倍となっています。結果的に被災の程度は大きくはなかったにせよ、小さなエラーやミスが潜んでいることがわかります。

全工場では、ヒヤリ・ハット提案、KY訓練、リスクアセスメントなど、コツコツと活動を積み重ねています。小さなエラーやミスに気づき、日々の動作をより安全に正確に長続きさせるためには、何故、そうするのか？を体験させ、納得させることが大前提です。また挨拶や声掛けなど、テクニカルスキルを補って完全なものにするコミュニケーションを主軸としたノンテクニカルスキルについても、向上を意識して進めていきます。



災害度数率
災害発生による100万労働時間当たりの災害による死傷者数（休業1日以上）をあらわしたもの



リスクアセスメント担当者会議の開催

・全社

リスクアセスメントを効果的に運用し安全意識を高めること、今後変化していくであろう職場環境・作業環境に対応できるよう、また次の世代へ文化として繋いでいく仕組みを構築することを目的に、リスクアセスメント担当者会議を年に2回開催しています。当社で働く人たちが安全で安心できる職場づくりにリスクアセスメントは欠かせません。

2019年3月に開催した第3回目の会議では、「臨時作業」が議題に上がりました。

①危険のポイント（何が危険なのか、何が起こりうるのか！）をグループ全員で共有すること。

②作業に関わる自分達だけでなく、周囲の人たちにも伝えておくことの重要性。

今後もリスクアセスメントに関わる担当者が抱えている問題の提起、問題解決の突破口となるような議論の場にしたいと考えます。



工場で開催。10名程度が集まります。他工場を見学できる良い機会。

健康で安全な職場づくり

・安全大会の開催（福島第二工場）

福島第二工場で行われる「安全大会」は一昨年から夏の定修時に行っている安全活動イベントの一つで、本社から会長、社長、常務にお越し頂き、安全に関する講話を頂いています。また、工場長からは安全表彰として、安全衛生パトロールに関して、5S実施に関しての表彰も行われました。



棚橋会長



棚橋社長



愛川常務

安全講話では、安全におけるコミュニケーションの重要性とヒューマンエラーの発生についての話があり、二つは大きく関連していることを学びました。講話を聴く中で、入社した頃から様々な業務を教わる間に起こった伝達ミスや言葉の行き違い・受け取り違いがあったことを思い出しました。

安全大会は、会長、社長、常務から直接お話を聴くことができ、会社としての安全対策への取り組みをより良く理解し、安全への意識を高められる貴重な機会だと思えます。

・「包装・出荷必携」の更新（本社）

出荷を担当する部署向けの安全読本「包装・出荷必携」をリニューアルしました。包装準備から倉入、積込作業等々、誰にでもわかりやすい表現で、作業への注意を喚起します。

各工場では、毎朝始業前のミーティング時に読み合せを行い、前日の反省や今日の目標など、作業の安全確認だけでなく、職場のコミュニケーションも担っています。



毎朝の読み合せ風景。今日も1日安全に。（愛知工場）

VOICE

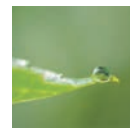
【優秀ヒヤリ・ハット提案賞を受賞して】

徳山工場 製造課
横田 侑士



今回、屋上デミスター水スプレーストレーナー掃除作業において、優秀ヒヤリ・ハット提案賞を頂きました。水スプレーストレーナーは高い位置にある為、踏み台を使用し掃除を行っていました。何気なく行っていた作業でしたが「危ない」と感じ、直ぐに上司に相談し、チーム員と共に考えて出来た対策が、ステージの拡張でした。ステージを拡張した事により危険性も無く作業性も向上出来ました。日頃から何気なく行っている作業にも「危険」が潜んでいると改めて解りました。

今後も小さなヒヤリ・ハットでも上司やチーム員に相談し、災害が起こらない職場環境を目指していきたいです。



環境パフォーマンス

地球温暖化や資源の枯渇などの地球環境問題は人類に課せられた最重要かつ至難の課題です。当社では、次世代へ豊かな自然や生活環境を残すため、環境負荷の低減、省エネルギーなどについて積極的に取り組んでいます。

また同時に、地域住民の方々や従業員の安全と健康の確保と環境の保護を前提に事業活動を行うことは企業の社会的責務と認識しています。従業員一人ひとりがRCを意識して活動を推進していきます。

2018年度の事業活動に伴う環境負荷

当社の2018年度の事業活動に伴う主な環境負荷の概況を以下に示します。

Input

エネルギー投入量

総量 31,128 KL/年
燃料 13,948 KL/年
購入電力 68,777 千 kWh



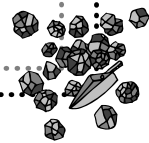
水資源利用量

184万 m³/年



原材料購入

59,713 t/年



Output

CO₂ 排出量

総量 67,375 t/年
燃料 31,927 t/年
購入電力 35,448 t/年



大気への放出

SO_x 排出量 1.7 t/年
NO_x 排出量 14.4 t/年
ばいじん排出量 3.2 t/年
PRTR物質 6.2 t/年



水域への排出

排水量 175万 m³/年
COD 排出量 7.9 t/年
窒素排出量 22.0 t/年
りん排出量 5.1 t/年
PRTR物質 0.1 t/年

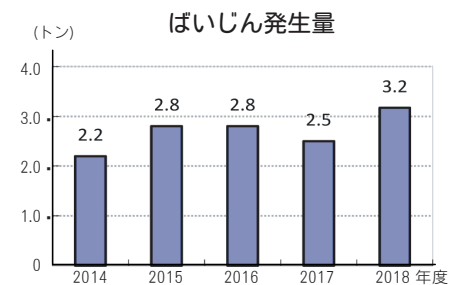


廃棄物発生

廃棄物発生量 12,988 t/年
再資源化量 3,394 t/年
最終埋立処分量 1,381 t/年



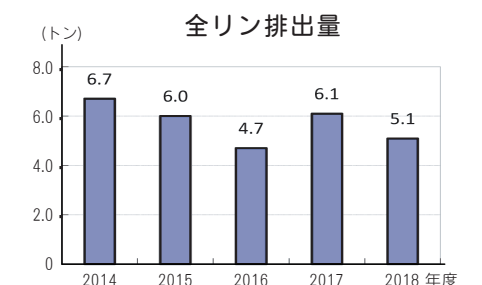
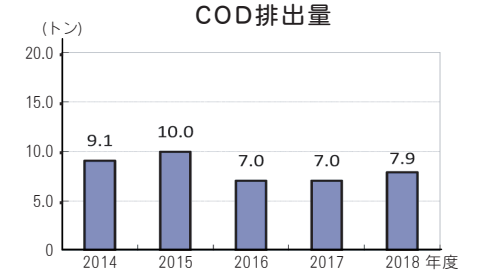
大気汚染防止への取り組み



都市ガスへの燃料転換の効果で、SO_xは2018年度も減少しています。NO_x、ばいじんの増加は、一部の工場のボイラー設備の老朽化によるもので、2019年夏季定修時に設備更新をしました。

設備更新による効果の確認、廃熱の有効利用の検討、クリーンエネルギーへの転換等、引き続き大気汚染物質の排出量削減に努めていきます。

水質汚濁防止への取り組み



公共水域へのCOD、全窒素、全リン排出量は、有機化合物を生産している福島第二工場の生産品目の影響により、増減します。2018年度の排出量は、原料由来の窒素、リンを含む製品の生産量が減少し、最終的に排水全体で窒素、リンを含む割合は低くなりました。

環境負荷物質の削減は、生産活動を存続する上で重要な課題です。今後も継続的な設備等の改善、管理強化等に努めていきます。

【用語解説】

SO_x (硫黄酸化物) :

重油、石炭等の燃料を燃焼させる際に、燃料に含まれる硫黄が酸化され、二酸化硫黄、三酸化硫黄として、燃焼排ガスと共に排出される。これらの硫黄酸化物 (SO₂、SO₃) の総称。

NO_x (窒素酸化物) :

各種燃料の燃焼、電気炉、自動車のエンジン等で空気中の窒素が高温で酸化を受け、一酸化窒素、二酸化窒素等の窒素酸化物を生成する。これらの窒素酸化物 (NO、NO₂、N₂O₃) の総称。

ばいじん :

大気汚染防止法の規制対象物質で、燃料、その他の物の燃焼または熱源としての電気の使用に伴い発生するススや燃えかす等の固形粒子状物質の総称。

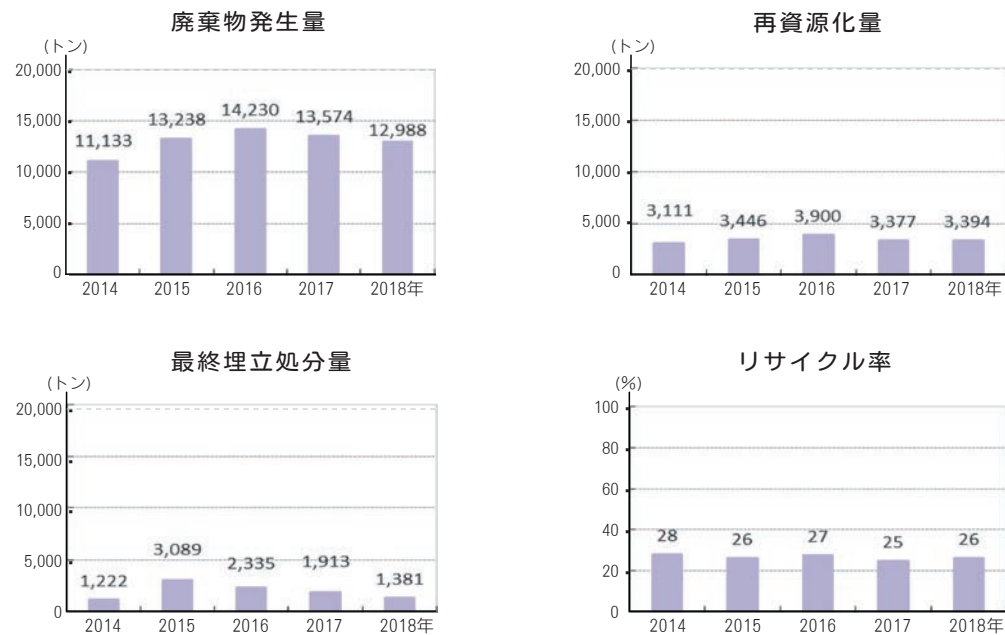
COD (Chemical Oxygen Demand) 化学的酸素要求量 :

有機物による水質汚濁の指標。排水中の有機物を酸化剤 (過マンガン酸カリウム) で化学的に酸化するときに消費される酸素の量。

廃棄物削減への取り組み

(一社)日本経団連の廃棄物削減目標は、2020年までに埋立処分量を2000年比70%減にすることです。当社は既に2007年に達成しております。当社の廃棄物の量は2016年以降減少しています。これは、製品の再配置検討、老朽化設備撤去等、一時的な排出が一段落したことにあります。製造工程で発生する汚泥等の副産物については、処理方法変更による減量化や可能な限りの原単位などの見える化を行っています。これによって、工程原料としての再利用や有価物としての利用価値を見出し、廃棄物の排出量を抑えています。また、最終埋立処分を行ってきたものについては、リサイクルを念頭に見直しを進めています。

今後も3Rを積極的かつ計画的に推進し、廃棄物の減量化を図ります。



リサイクル率：廃棄物の発生量に対して、リユース（再使用）とリサイクル（再資源）した量の比率。

産業廃棄物処理業者視察（福島第二工場）

排出物の適正処理状況確認のため、原料溶剤の空ドラム缶を有価物として売却している株式会社コバヨウ新潟工場へ2019年5月21日に定期監査として訪問しました。

製造プラント見学の際、案内・工程説明を行うのは若年層の担当となっており、同行したプラント責任者同伴の下、来場者への説明だけでなく、若年層従業員が作業工程をどれだけ把握しているのか、確認の場としても活用されているようでした。平成12年から事業開始という事で設備は古く迷路のような造りになっていましたが、通行区分帯や頭上注意喚起等がしっかりされており自社の急所を抑えている印象。また、保護具着用基準、作業工程表示、作業手順が各所に掲示されており安全意識の高さが伺えました。

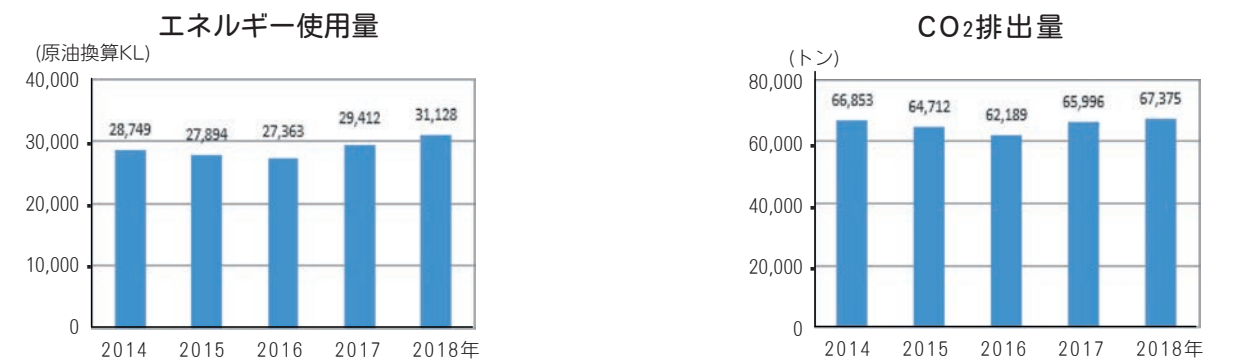
今後も定期的な有価物業者の監査を進め、コンプライアンス違反防止に注視していきます。



省エネルギーの推進

エネルギー使用量とCO₂発生量

(一社)日本化学工業協会では化学企業の2020年削減目標の「低炭素社会実行計画」を公表しています。当社も会員企業として参加し活動しています。2018年度は会社全体として稼働率の増加により、エネルギー使用量、CO₂排出量ともに増えています。各事業所ではエネルギー使用設備の自主点検、自主診断、省エネ提案による改善などの積極的な活動により、省エネ意識は向上しています。今後もこまめな省エネの積み重ねで、継続的な活動を推進していきます。



省エネルギー活動（愛知工場）

珪カリガスバーナの変更

珪酸カリガラスは、都市ガスを燃料として珪砂とカリ源を溶融炉で溶融しガラスを製造しています。日々、品質状態や原料投入口の溶融状態を確認しながら、省エネ活動を行っており、これまで関連した溶融炉の経験を生かして、愛知工場の溶融炉に合うバーナをメーカーと試行錯誤しながら開発・設置しました。

バーナ変更に伴い期待以上の省エネを達成し、更に炉内温度が下がったことにより耐火レンガの延命にもなり、修繕費の抑制にもつながりました。

今後も品質状態等を確認しながら、創意工夫をして省エネ活動に取り組んでいきます。



カリ炉全景

VOICE

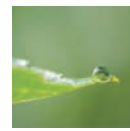
【工場外灯照明LED化】

愛知工場 製造課
動力グループQCサークル 宮本 満義



愛知工場では、MCR、省エネ活動でLED照明の導入テーマが増えてきました。LED照明にすることで高寿命、電力削減と省エネに期待ができることにより、動力GではQCテーマとして取り上げ活動しています。活動の一環として、グループ員が「高所作業車取扱いの資格」を取得し、自営で高所の取替え作業も行えるようになりました。今回の活動で新しい挑戦を経験したことによって、動力グループとしての仕事の幅も広がり、また、サークル員の省エネに対する意識向上にも繋がったと思います。





トピックス

安全衛生活動トピックスです。より安全で働きやすい職場づくりのため、トップからのメッセージです。全員参加の安全衛生活動でゼロ災職場を目指しましょう。

経営トップによる安全衛生方針の発表

安全衛生方針

『安全で健康な明るい職場づくり』
 会社を運営していくうえで、「安全」は避けては通れません。
 「安全」を企業文化として定着させるべく活動していきます。
 あわせて社員全員が明るく、健康に過ごせるよう職場環境の改善に努めていきます。

トップメッセージ (ポスターの掲示)

ポスターのメッセージは、
 未来につなげる安全風土を構築しよう。
 みんなで築こう 安全職場！！
 みんなで摘み取る危険の芽
 チームワークで 目指すゼロ災

会社名 日本化学工業株式会社
 代表者 代表取締役社長 棚橋 洋太

Safe work TOKYO

～トップが打ち出す方針 みんなで共有 生み出す安全・安心～
 第13次東京労働局労働災害防止計画推進中

労働災害防止に当たっては、具体的な取組みに先立ち、労働者の安全や健康を守るという「経営トップの強い意識」が極めて重要です。

そこで、トップメッセージとして各事業所に掲示している安全ポスターと安全衛生方針を記載したものを（左図）を東京労働局のホームページに2019年7月に掲載しました。

「当社で働く全ての人の安全衛生確保を第一に、明るく、健康に過ごせるよう職場環境の改善に努めていきます。」という社長のメッセージに応えるべき、全員参加で更なる安全衛生活動の強化を目指します。

ポスターのメッセージは、
 『未来につなげる安全風土を構築しよう。』

『みんなで築こう 安全職場！！
 みんなで摘み取る危険の芽
 チームワークで 目指すゼロ災』

「魅力ある職場づくり」の推進！

2018年7月25日に福島労働局の森戸局長ら5名が福島第一工場に来場されました。福島労働局では県内各企業の働き方改革への取り組み状況のヒアリングと共に、さらなる取り組みの要請を行なっているとのことでした。森戸局長からは、「魅力ある」職場作りの推進に関する説明があり、同取り組みへの要請書を手渡されました。また、「イクボス宣言」と「次世代育成支援企業認証」についても説明があり、取得を推奨されました。福島第一工場からは、時間外労働の削減や年次有給休暇の取得推進等、働き方改革への取り組み状況の説明を行っています。説明内容に関しては、福島労働局ホームページに掲載されています。

今後も魅力ある職場を目指して、各種改善活動、従業員の健康管理に努めてまいります。

「魅力ある職場づくり」推進に向けた働きかけ 各企業の取組について

日本化学工業 株式会社 福島第一工場 様

会社概要
 事業内容 電子セラミック材料・電池材料・回路材料等の生産
 所在地 福島県郡山市

当社の働き方改革の主な取組

「時間外労働の削減」
 ⇒ 月1回の「残業抑制日」を、本年8月からは毎週水曜日に実施することとして、時間外労働の削減に取り組んでいる。

「年次有給休暇の取得促進」
 ⇒ 計画年休、年休取得推奨日をカレンダーに導入するなどして、年休の取得推進を図っており、取得率は年々向上している。

社長面談がスタートしました！



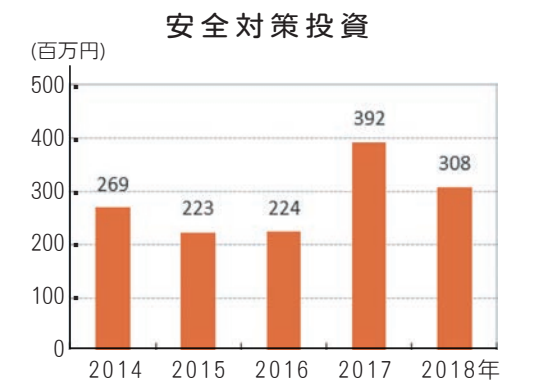
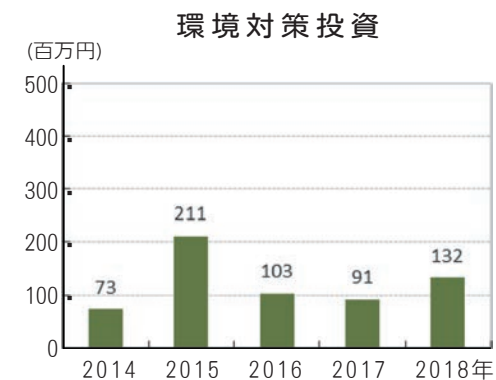
棚橋社長が2017年4月に社長に就任し、2年が経過しました。社長のたっの希望であった全従業員との面談がスタートしました！
 現在進行中です。

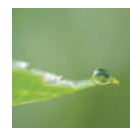


環境会計

環境安全対策投資

環境保全と安全確保を重要課題と捉え、積極的に環境安全対策への投資を行っています。





サイトレポート

愛知工場

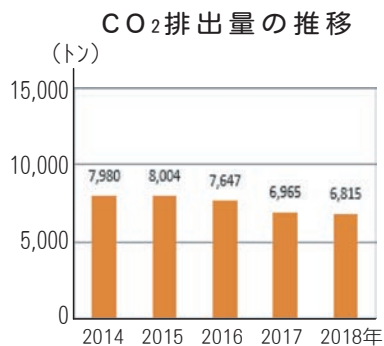
所在地：〒470-2513

愛知県知多郡武豊町字1号地17-1

主な製品：りん酸、無水リン酸、ポリリン酸、高純度メタリン酸塩、食添用リン酸塩、リチウム塩、過マンガン酸塩、珪酸カリ



工場長
高橋 政樹



◆RC目標

方針 環境負荷の低減

- 指示事項
1. 産業廃棄物排出量の削減
 2. 異常排水・排気発生の完全防止
 3. 省エネルギーに関する設備・作業・管理方法改善
 4. 地域貢献活動の推進・積極参加
 5. 緊急事態対応の確立
 6. 実践力のある訓練の実施

◆安全衛生目標

方針 安全文化と職場環境のレベルアップ

- 指示事項
1. 安全審議委員会の活用によるリスク検出と低減
 2. 効果的な教育・研修の実施
 3. H・H・KYK・写真RAの活用等安全活動の活性化
 4. リスクレベル低減のための設備・作業改善
 5. ストレスチェックの完全実施とフォロー

方針 コンプライアンス遵守と個人のスキルアップ

- 指示事項
1. ストレスチェックの完全実施と健康維持・増進のための活動推進
 2. 効果的な教育・研修の実施
 3. 顧客・他工場や他部署との有効的な交流
 4. 公的資格取得の推進
 5. 有資格・認定制度の明確化と管理体制確立

RC事務局メンバーは、他の事務局業務を兼務しながら通常業務も行っています。工場環境配慮や安全衛生の向上と保安防災、地域貢献活動の推進に取り組んでいます。

地域貢献活動では武豊町主催の「水辺クリーンアップ大作戦」に毎年参加しており、少しでも地域貢献に協力したい思いで多くの方々へ参加を呼び掛けています。また、いつ来るかわからない南海トラフ地震に備えた訓練の実施やマニュアルの見直し、安全活動においては無災害継続への取り組みも積極的に行っています。

工場の安定操業に少しでも協力出来るように、事務局メンバーは高齢化しつつも日々奮闘しています。(記 滝田 裕次)



RC事務局メンバー
木村(隆)、大久保、市川、後藤、滝田



水辺のクリーンアップ大作戦！！

化学物質の危険の「見える化」



ボーリングでもコミュニケーション！



福島第一工場

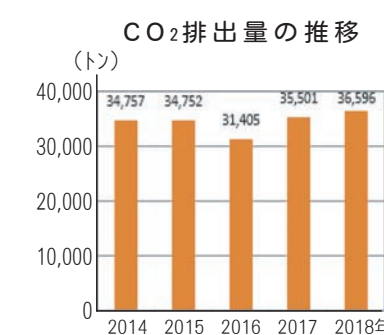
所在地：〒963-8812

福島県郡山市松木町2-2 5

主な製品：電子セラミック材料、電池材料、回路材料、高純度炭酸バリウム、硫酸バリウム



工場長
落合 一男



◆RC目標

1. 廃棄物の削減
2. 環境クレーム・事故の撲滅
3. 省エネルギーの推進

◆安全衛生目標

【安全】

方針 全員参加で安全活動を推進し、完全無災害を達成する

目標 ヒヤリ・ハット報告の活性化と、措置内容の早期対応
危害防止装置の維持管理と保護具着用区分の徹底

【衛生】

方針 心身の健康維持・増進と明るく働きやすい職場作りを推進する

目標 睡眠・運動、食習慣を見直し、心身の健康維持・向上を図る
思いやりの心と活発なコミュニケーションでチームワークを高める

当工場のRC事務局（環安・品証課）は、4名で担当しております。今期のRC活動で特に力を入れて取り組みを行なった「安全・防災面」について紹介いたします。

安全面では、「無災害の達成」を掲げ、場内のハザードマップを作成し、各所への掲示と周知を図りました。また安全教育では、社外の危険体感教育に工場・協力会社で参加し今も継続中です。

総合防災訓練では、訓練器材の大幅な見直しを行い訓練の充実を図りました。

今後も危険意識の向上を図り、無災害工場の目標達成に向けて工場一丸となって邁進いたします。(記 南口 春彦)



RC事務局メンバー
上野、小室、南口、上本



出入りに掲示された
場内ハザードマップ



危険体感訓練、継続中。



充実した訓練へ。

徳山工場

所在地：〒745-0024

山口県周南市晴海町1-2

主な製品：無水クロム酸、酸化クロム、重クロム酸ナトリウム、硝酸バリウム、水酸化バリウム、中性無水芒硝、三価クロム塩



工場長 石川 賢一



◆RC目標

1. 緊急時の即応体制の強化
2. 工場外への環境影響の低減
3. エネルギー原単位の低減
4. 場内廃棄物の適正処理
5. 「著しい環境側面に関連する運用一覧表」の運用と教育
6. 安全審議委員会の運用
7. 法的管理者のレベルアップ

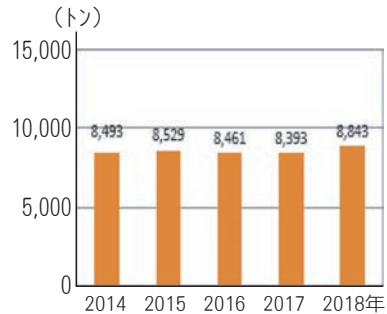
◆安全衛生目標

目標 完全無災害

重点項目 リスクアセスメント推進に基づくリスクの低減
快適な職場環境の構築



CO₂排出量の推移



福島第二工場

所在地：〒963-7741

福島県田村郡三春町天王前3

主な製品：各種有機燐化合物、医療・農業中間体、ヒシコーリン®、高純度ホスフィンガス、高純度赤燐、赤燐・ヒシガード®、次亜燐酸ソーダ



工場長 只佐 正己



◆RC目標

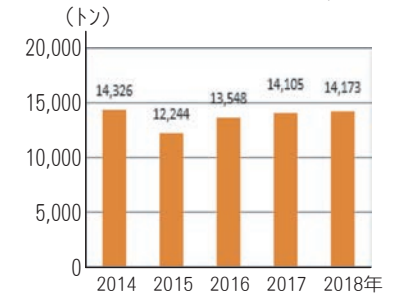
1. 環境苦情ゼロ
2. 廃水タンクの非危険物化
3. 異常排水、薬液漏えいゼロ

◆安全衛生目標

目標 事故災害ゼロ、作業環境の改善と健康増進

- 重点項目
1. 個別安全審議の充実化
 2. 工程マンホール開放作業の精査
 3. 安全衛生パトロール是正確認の強化
 4. 化学物質RAの是正処置の実施
 5. ストレスチェック活用と長時間労働の改善による健康増進
 6. 健康診断の成人病検診の内容見直し

CO₂排出量の推移



護岸清掃、安全もヨシ！

徳山工場 環境安全・品質保証課はメンバー4名でRC活動の発信を行っております。品質・環境・保安防災等幅広い仕事をしておりますので、他部署とのコミュニケーションは欠かせません。これからも、更なる意識向上に向け各部署と相談や話し合いを繰り返し、工場全員で協力して『環境にやさしい工場』を目標に、日々RC活動に取り組んでいきます。

(記 藤井 未沙子)



RC事務局メンバー
井上、藤井
宮本、立石



清流錦川一斉清掃大作戦！！



RC事務局メンバー
伊藤 (辰)、渡辺 (裕)、猪俣
菊地、木村、堂



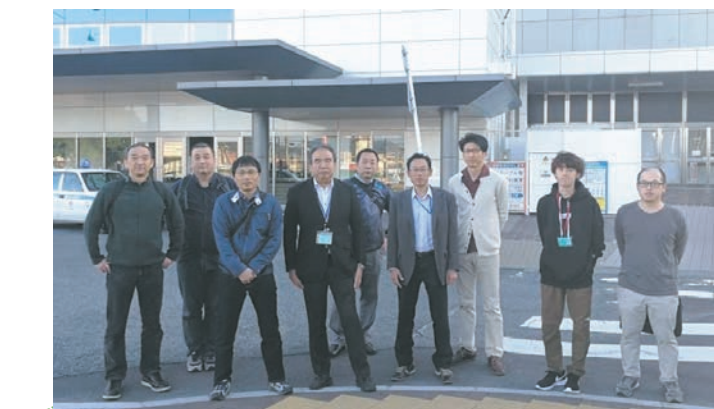
地域の清掃活動

環境安全・品質保証課は4月より増員し、「環境・安全グループ」、「品質保証グループ」に分かれ、現在6名体制にて業務を行っています。「環境・安全グループ」では主に各種産廃の対応や安全に関する審議や再評価等の業務を、「品質保証グループ」では原料、設備、工程などの変化点管理やクレーム対応等品質や製品の保証に関する業務を行っています。少量多品種生産という第二工場においては、どちらのグループも業務の幅が多岐に渡って知識が必要なので、覚えるのに四苦八苦しています。

(記 渡辺 裕子)



新設！有機5工場



今日はノーマイカーDAY！
さあ、歩くぞ！（JR 徳山駅前）

本 社

所在地：〒136-8515
東京都江東区亀戸 9-1 1-1

◆RC目標

1. 保安防災管理の強化
2. 廃棄物管理強化
3. 地域社会貢献活動への参加

◆安全衛生目標

1. 安全衛生意識の高揚
2. ヒヤリ・ハット活動の推進
3. 化学物質RAへの取り組み



RC事務局メンバー
三井、河谷、野口、林
大原、金井、伊藤、村松



執行役員兼
事業推進本部長
伊藤 正博



毎年4月のRC清掃は、役員の方々と安全衛生委員会
メンバーで行います。



只今好評実施中!!
手軽に健康診断

恒例になった衛生週間行事、
「血管年齢測定会」!!
指先をセンサーに入れるだけ!



豊かな暮らしのために (製品用途)

機能品事業 (電子セラミック材料、バリウム製品、回路材料、電池材料、有機リン化合物 医薬中間体、受託合成、半導体材料、難燃剤、その他の機能品材料)



主な製品

パルセラム、高純度炭酸バリウム、硝酸バリウム、ブライト、セルシード、ヒシコーリンP-4、
ヒシコーリンP-8、CPCP、高純度ホスフィンガス、高純度赤リン、ホスファゼン系難燃剤 等

用途

積層セラミックコンデンサ、セラミック、光学ガラス、火工品の原料、液晶パネル用導電性スペーサー、
リチウムイオン電池、触媒・配位子、量子ドット合成用溶媒、抗生物質、半導体ドーパント剤、Siウエハ等

化学品事業 (クロム製品、シリカ製品、リン製品、その他の無機化学品)



主な製品

重クロム酸ナトリウム、フレーク無水クロム酸、酸化クロム、珪酸ソーダ、珪酸カリ、燐酸、
トリポリ燐酸ソーダ、中性無水芒硝、亜酸化銅 等

用途

無機顔料、染料・染色、金属表面処理、耐火物、研磨剤、土壌硬化剤、金属洗浄剤、
溶接棒の被覆接着剤、工業用金属表面処理、電解研磨、合成洗剤、食品添加物およびその原料、
入浴剤、船底塗料 等



ケミカルマテリアルジャパン2018 出展



国際粉体工業展 東京2018
ファインテック ジャパン2018 出展